

地理歴史科（地理総合）学習指導案

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和4年 月 日（ ） 第 時限
- 3 学 級 1年〇組（〇〇名）
- 4 使用教科書 『わたしたちの地理総合』（二宮書店）
- 5 単元（題材）名 世界の地形と生活文化
- 6 単元（題材）設定の理由

<生徒観>

本クラスの生徒は、興味・関心のあることに対しては積極的に取り組み、授業内の作業等にも前向きに取り組むことができる。特にペアやグループで行う活動が好きで、自然と仲間と協働して取り組む姿が見られる。一方で、中学校以前から社会科に苦手意識を持っている生徒も多く、基礎的な知識の習得度にも個人差が見られる。そのため、現代社会の出来事に対して興味・関心が薄く、社会的なものの見方・考え方も一面的なものにとどまっている。新聞やニュースから徳島の話題等を取り上げつつ、様々な社会的事象に対する見方・考え方の育成を図っている。

<教材観>

この単元では、地球上の様々な地形が生じるメカニズムを学ぶことに加えて、その中で人々がいかに自然と調和し、相互に依存しながら生活を営んでいるのかを学ぶことができる。世界の諸地域を取り上げるのと同時に、生徒が興味を持ちやすいように県西部の山岳地域や県東部の平野部などを事例として挙げながら、人間と自然環境との相互依存関係について考察し、持続可能な地域づくりにつながっていくことについても気づかせたい。

<指導観>

徳島県の西部に位置する本校へは、学校よりさらに遠方の地域から登校している生徒もいるが、県西部の魅力について尋ねると「とくにない」と答える生徒は多い。世界農業遺産にも認定されている「にし阿波の傾斜地農耕システム」については、名前も知らない生徒も依然として多い。

本単元においては、基軸となる問いとして「人々は様々な地形の広がる世界でどのように自然と関わって暮らしているのだろうか？」を挙げ、世界各地だけでなく地元徳島の人々の生活と自然環境との関わりを学ぶ中で、それらを比較・考察し、地理的な見方・考え方を育成したい。

7 単元（題材）の目標

- (1)世界各地の地形の特徴と形成のメカニズムを理解することができる。
- (2)世界各地の特色ある人々の暮らしが自然及び社会的条件とのかかわりの中で形成され、自然環境との相互依存関係の下に成り立っていることを多面的・多角的に考察することができる。
- (3)世界の諸地域でみられる生活文化の様子が表れている資料を、意欲的かつ主体的に読み取ろうとしている。

単元の基軸となる問い

様々な地形の広がる世界で人々はどのように自然と関わって暮らしているのだろうか。

8 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> プレートテクトニクス等の大地形や、浸食作用や地積作用等の小地形を形成するメカニズムを理解している。 景観写真から地形の特徴を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地形に関する複数の資料から地形と人々の生活との関連性を考察することができる。 デジタル地形図を用い、地域の抱える防災における問題点や課題点について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地形図やタブレットを用いた作業学習に積極的に取り組み、他者と協働しながら主体的に学習に取り組むことができる。 地域の人々の生活と自然環境との関わりについて、主体的に追究しようとしている。

9 指導計画 単元名 世界の地形と生活文化 全8時間

- 第1次 地球上の地形のなりたち・・・2時間【●知・○思・○態】
- 第2次 山地と平野の生活・・・2時間【○知・●思】
- 第3次 海岸部の生活・・・2時間【●知・○思】
- 第4次 身近な地域の生活と自然環境・・・2時間【●知・○思・●態】（本時）

単元の指導計画（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次程	学 習 活 動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1次 (2時間扱)	基軸となる問い：様々な地形の広がる世界で人々はどのように自然と関わって暮らしているのだろうか				
	第1次の問い：世界の大陸や山脈はどのように形成されたのだろうか。				
	<ul style="list-style-type: none"> 世界中で撮影された複数の景観写真やGoogleEarthから、その地形の様子を観察し、成因について予想し発表する。 大陸が移動して現在の場所にあることを複数の資料から読み取る。 プレートの境界の位置と地震や火山の分布について地図上で確認し、それらの関連性について考察する。 	●	○	○	<p>(評価資料) ワークシート, 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地形の特徴を注意深く観察し、積極的に自分の言葉で説明しようとしている。(態度) ●プレートの分布とプレートテクトニクスについて理解している。(知識) ○地震の震源の分布と火山の分布がプレートの境界の分布と深く関連していることを考察している。(思考)

<p>第二次 2時間扱</p>	<p>第2次の問い：平野に形成された地形で人々はどのように生活を営んでいるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真資料や映像資料から、平野で生活する人々の暮らしの特徴について、考察する。 河川のはたらきについての知識を確認し、それぞれの平野の地形の成因について理解する。 平野の地形で起きやすい身近な災害について理解した上で、自らにできる防災について考察し発表する。 	<p>● ○ ●</p>	<p>(評価資料) ワークシート, 班活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの地形でみられる産業や集落の立地などを資料から読み取り、考察している。(思考) ○浸食・運搬・堆積の作用を理解し、それぞれの地形が形成された理由をまとめている。(知識) ●平野で起きやすい災害について理解し、その対策について考察した結果を説明している。(思考)
<p>第三次 2時間扱</p>	<p>第3次の問い：海沿いに形成された地形で人々はどのように生活を営んでいるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真資料や映像資料から、海沿いの地形で生活する人々の暮らしの特徴について、考察する。 沈水と離水について理解し、それぞれの海岸地形が形成されるメカニズムについて理解する。 海沿いの地形で起きやすい身近な災害について理解した上で、自らにできる防災について考察し発表する。 	<p>● ● ○</p>	<p>(評価資料) ワークシート, 班活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの地形でみられる産業や集落の立地などを資料から読み取り、考察している。(思考) ●沈水海岸と離水海岸のそれぞれの成因を理解している。(知識) ○海沿いで起きやすい災害について理解し、その対策について考察した結果を説明している。(思考)
<p>第四次 2時間扱 ★ 本時 2 / 2</p>	<p>第4次の問い：山地に暮らす人々は、どのように自然と調和して生活しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山地での生活の代表例を地図上にまとめ、どのように形成された地域かを学習支援アプリを用いてまとめる。 諸資料をもとに山地で暮らす人々の生活についてまとめ、理解する。 西あわの傾斜地農耕システムについて理解し、その価値について考察し発表する。 	<p>● ● ○</p>	<p>(評価資料) ワークシート, 班活動 学習支援アプリ (MetaMoji)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世界各地の大地形の分布や山地が形成されたメカニズムについて、学習支援アプリを用いた班活動を積極的に行っている。(態度) ●人々の生活が地形に適応したものとなっていることを理解している。(知識) ○世界でみられる山地での暮らしと比較・検討し、その価値について自分の言葉で説明している。(思考)

10 本時の指導目標

世界の山地で今も残る人々の暮らしを理解し、その特徴を「MetaMoJi Classroom」を用いてまとめ、表現する活動を通して、人間と自然との相互依存関係について考察する。また、「西あわの傾斜地農耕システム」の特徴を理解し、その意義や価値について考察し、表現することができる。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 (5分)	・前時までの流れを確認した後、徳島にも山地で生活をしている地域があることを知り、本時の目標を確認する。	・これまでに学習した様々な地形の成因について振り返り、その中で紹介した人々の暮らしを想起させる。		
展開1 (30分)	MQ：徳島西部の山地に暮らす人々は、どのように自然と関わって生活しているのだろうか？			
	<ul style="list-style-type: none"> ・地理院地図を用いて「西あわ」の位置や集落の位置を確認する。 ・MetaMoji Classroomの諸資料から傾斜地農耕システムの特徴を調べまとめる。 ・班を解体し、それぞれの調べたことを共有し、傾斜地農耕システムについてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GISを用いて縮尺を変えながら、地帯構造の特徴を整理する。 ・班の担当する項目に従って重要な点をまとめさせる。 ・自然との関わりに注目してまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な視点から傾斜地農耕システムについて考察している。【思考】 	<ul style="list-style-type: none"> ・MetaMoji Classroomワークシート ・ワークシート
展開2 (10分)	・傾斜地農耕システムから何を学ぶべきか考察し発表する。	・現代で遺産として継承されることになった意義や価値について考察させる。	・情報を基に複数の視点から考察し、自身の意見をまとめることができる。【表現】	・ワークシート
まとめ (5分)	・本時のまとめと自己評価をワークシートに記入する。	・単元の全体を通して振り返りをさせる。		

12 評価の目安と目標実現のための手立て（思考）

A	十分満足できる	傾斜地農耕システムに関して、複数の視点からの情報を整理し人間生活と自然環境との相互依存関係について考察し、その価値や意義を自分の言葉で説明することができる。
B	おおむね満足できる	傾斜地農耕システムに関して、複数の視点からの情報を整理し人間生活と自然環境との相互依存関係について考察しようとしている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	考察する視点について指導することや、補足資料を用意し現代の諸課題について想起させることを通して、今後必要とされていることに気づかせる。

